

# 文化財情報資料部報（平成二十九年度）

異 動（平成三十年四月一日付を含む）

小山田智寛は、平成二十九年七月一日付で文化財情報資料部文化財情報研究室研究員に採用された。

文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員安永拓世は、平成二十九年九月一日付で東京国立博物館学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室に併任された。

文化財情報資料部長津田徹英は、平成三十年三月三十一日付で辞職した。

東京文化財研究所副所長山梨絵美子は、平成三十年四月一日付で文化財情報資料部長兼務となった。

## オープンレクチャー

第五十一回のオープンレクチャーは、「かたちからの道、かたちへの道」をテーマに掲げ、研究所セミナー室において左記の通り開催した。

十一月二日（木曜日）午後一時半～四時半

穢土としての身体——日本中世絵画に描かれた病と死体

共立女子大学 山本 聡美

海を渡った日本絵画——ライプツィヒ民族学博物館所蔵

「四条河原遊楽図屏風」の紹介をかねて

江村 知子

十一月三日（金曜日）午後一時半～四時半

写された枇杷図——狩野探幽と江戸の再生

小野真由美

田楽を作る歌仙——伊藤若冲の歌仙図について

神戸市外国語大学 馬淵 美帆

## 研究会

四月二十五日 「おいしい生活」第三次産業への転換期の日本の文化を

考察する

日本学術振興会特別研究員 山村みどり

五月三十日

六月二十七日

呉春筆「白梅図屏風」（逸翁美術館蔵）の史的位 置 安永 拓世  
橋本雅邦の人物表現——東洋大学蔵《四聖像》をめぐる 井原市立田中美術館 田中純一郎

七月二十五日

八月七日

九月五日

九月二十二日

十月二十四日

十一月二十一日

十二月二十六日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

日本の美術史研究・美術展におけるジェンダー視点の 導入と現状 実践女子大学非常勤講師他 小勝 禮子

橋本雄「雪舟入明再考」に寄せて 文化庁 綿田 稔

コメンテーター 九州大学 伊藤 幸司

同 早稲田大学 米谷 均

同 東京大学史料編纂所 須田 牧子

同 東京大学史料編纂所 岡本 誠

フランスにおける近代美術関連資料——美術館・図書館・ アーカイヴ・インターネットリソースの紹介と活用例 齋藤 達也

メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器器具と 甲賀市水口に伝わるレイピアの検討

メトロポリタン美術館 ピエール・テルジャニアン

資料紹介 滋賀・浄厳院蔵 木造 釈迦如来立像 津田 徹英

京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察 日本学術振興会特別研究員 佐藤有希子

タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味 サイアム大学 高田 知仁

コメンテーター 九州国立博物館 原田あゆみ

黒田清輝関係文書書類の解説 近松 鴻二

岸田劉生における一九一三年から一六年の 「クラシック」受容について 田中 淳

美術館における現代美術の保存と修復 国立国際美術館 小川 絢子

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

一月三十日

保存・修復の歴史において現代はそんなに特別か

東京藝術大学 平 諭一郎

二月二十七日

中宮寺文殊菩薩立像に関する一考察

増田 政史

三月十六日

東京文化財研究所の美術雑誌——その収集と公開の歩み

塩谷 純

『日刊美術通信』から見えてくる、もうひとつの

昭和10年代アートシーン 東京国立近代美術館 大谷 省吾

「美術」雑誌とは何か——その難しさと価値をめぐって

金沢美術工芸大学 森 仁史

刊  
行  
物

『公開研究会予稿集増補版 南蛮漆器の多源性を探る』pdf版 平成二十九年六月

『日本美術年鑑 平成二十八年版』 平成三十年三月

『鏡神社所蔵 重要文化財 絹本着色 楊柳観音像——光学調査報告書——』

平成三十年三月

『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書——光学調査編——』

平成三十年三月

『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 卷三・卷四 光学調査報告書』

平成三十年三月